

甲状腺検査に関する用語について、以下で説明させていただきます。

甲状腺機能検査

甲状腺から出る甲状腺ホルモンには、サイロキシン（FT4）とトリニヨードサイロニン（FT3）の2種類があり、体内では血液中の甲状腺ホルモンが常に一定の値を維持できるような仕組みが働いています。これをコントロールしているのが、脳の下垂体という部分から分泌される甲状腺刺激ホルモン（TSH）です。このホルモンは、甲状腺を刺激してホルモンの分泌を促します。血液中の甲状腺ホルモンが増えすぎた場合は、TSHの分泌量が抑えられ、逆に血液中の甲状腺ホルモン濃度が正常以下になると、TSHの分泌量が増えて甲状腺ホルモンの分泌を促します。

このFT3、FT4、TSHの値を調べることで甲状腺機能をチェックすることができます。

- FT4、FT3 高値 …… 甲状腺機能亢進。通常 TSH は低値となります。
- FT4、FT3 低値 …… 甲状腺機能低下。通常 TSH は高値となります。
- FT4、FT3 正常 …… TSH が正常→正常

TSH が高値→潜在性甲状腺機能低下

TSH が低値→潜在性甲状腺機能亢進

潜在性の機能異常では、甲状腺の調子が悪いいため TSH を調節して甲状腺ホルモンの値を正常にしている状態です。潜在的甲状腺亢進ではバセドウ病などが考えられ、潜在的甲状腺機能低下では橋本病などが考えられます。

甲状腺腫大^{しゅだい}

甲状腺腫大は甲状腺が腫れて大きくなった状態を指します。甲状腺ホルモンの分泌状態によって以下の疾患に分類されます。

PSA は経年変化が重要ですので定期的なチェックを続けてください。

バセドウ病

甲状腺ホルモンが多く出すぎる疾患です。異常に新陳代謝が高まり、動悸・発汗・手指のふるえ・体重減少・眼球突出などの症状がみられます。血清脂質（コレステロール、中性脂肪など）は低下します。

甲状腺機能低下症

血中甲状腺ホルモンが低下する病気で、甲状腺細胞が何らかの機序により、破壊されることが多いようです。新陳代謝が低下して活動性が少なくなったり、疲れやすい、無力感、むくみなどの症状がみられ、血清脂質（コレステロール、中性脂肪など）は高値を呈します。

単純性甲状腺腫

甲状腺全体が腫大していますが、血中の甲状腺ホルモンは正常に分泌されているものです。治療の必要はありません。

甲状腺腫瘍^{しゅりゅう}

大きく分けると次の3つに分けられます。超音波だけで良性、悪性の判断が難しい場合がありますので、精密検査の指示があるときはご受診ください。

結節性甲状腺腫

甲状腺に（腺腫様結節）ができたものです。女性に多く、大きさも様々です。ごくまれに、しこりが甲状腺ホルモンを過剰に分泌し、バセドウ病のように甲状腺亢進症の症状を呈することがあります。

腺腫様甲状腺腫

しこり（腺腫様結節）が甲状腺内に多発して全体的に腫れてくる病気を腺腫様甲状腺腫と称し、がんと間違えられることも多い病気です。結節性甲状腺腫に比べると大きいことが多く、まれに⑧根の中まで下がっていくこともあります。あまり症状は伴いません。通常は経過観察となりますが、大きくなりすぎた場合やがんが疑われる場合などには手術をすることもあります。

甲状腺がん

女性の方が、男性よりも2.5倍ほど多くかかります。甲状腺のがんは比較的進行が遅いものが多いですが、超音波検査で精密検査を勧められた場合には専門医を受診して詳しく調べる必要があります。

甲状腺嚢胞^{のうほう}

甲状腺の中に液体が溜まった小さな袋ができた状態です。多くは放置可能ですが、嚢胞の中身の状態により二次検査が必要になることがあります。

受診を指示された場合は甲状腺・内分泌内科を受診してください



医療法人社団 同友会

Copyright2025 同友会グループ All Right Reserved.